

Journal of Occupational Science(2022) 第29巻 1号

作業科学の研究は一般的に健康を促進し、Well-beingを実現するための作業と社会の関係性を明らかにしてきた。Journal of Occupational Science 29巻1号では、作業科学の研究の裾野をさらに広げようと、歴史的に無視されていたり、望ましくないものとされてきた作業、あるいは否定されたり、声を上げづらかった様々な対象の作業と社会との結びつきについて新しい視点をもたらそうとしている。本書評では、計8編について紹介する。

最初の論文は、Bergerら(2022)が、社会的イデオロギーが働く母親のdoing、being、becoming、belongingにどのように影響するかを分析した。働く母親がどのように影響を受けているのか理解が促された。

2つ目の論文は、Huffら(2022)によって、タンザニア人女性のジェンダー不平等の経験を探求したもので、タンザニアの歴史的、社会文化的、政治的文脈をより広く探求する中で、ジェンダー化された作業に関連する主要な発見が共有された。

3つ目の論文は、McCarthyら(2022)による、ノンバイナリー(非二次元的な性認識)の個人の作業経験に対して焦点を当てた研究である。支配的な二元的文化(バイナリー)の外にいる多様な集団の作業の複雑な性質を明らかにした。

4つ目の論文は、Almeida(2022)によるLGBTQ+のアイデンティティを持つグループの夜のレジヤの重要性を調査したもので、夜間のレジヤがLGBTQ+の人々のサポートを実施できることを示した。しかし、差別のいくつかの形態が残っていることを明らかにした。

5つ目の論文は、Hugsted(2022)による、デンマークの女性セックスワーカーから見たセックスワークの意味についての調査で、セックスワークへの従事は彼女らにとって有意義であると同時に、社会との結びつきの面で否定的な意味もあることがわかった。

6つ目の論文は、Parnell(2020)による、多忙な働くアフリカ系アメリカ人の母親の作業不均衡について調査したもので、作業不均衡が過小に見積られる社会的集団である少数派の女性に特有であることが示された。

7つ目の論文は、Thomasら(2022)による、インドの農村地域で障害のある子供が経験する作業的不公正について研究したもので、作業的不公正を形成し永続させるものは何かを明らかにすることを目的とした。結果として、作業の不公正を形成する社会文化的、経済的、制度的な力は複雑に絡み合っており、問題の責任分担や個人化が改善に向けての団結を阻害していることが示唆された。

最後の論文は、BarlottとTurpin(2022)による、ジル・ドゥルーズとフェリックス・ガタリの哲学を基に、欲求を概念化し、社会的世界と絡み合う情熱的・創造的・生産的なプロセスとしての作業を理論化することをめざした。欲求は創造的衝動として、日常生活の集合体によって生産され、同時に日常生活を生産するものと位置付けられているとした。

作業科学が社会的対応性を高めるためには、これまで無視や過小評価されてきた様々な異なる作業を研究する必要がある、これによって作業と健康、幸福の関係により多様な視点からの理解が可能になるだろう。

齊藤 雄一郎(イムス札幌内科リハビリテーション病院)

文献(引用順)

- Berger. M., Asaba. E., Fallahpour. M. & Farias. L. (2022). The sociocultural shaping of mothers' doing, being, becoming and belonging after returning to work. *Journal of Occupational Science*.29 (1),7-20.
- Huff. S., Laliberte. D., Magalhaes. R. L., & Lawson. E. (2022). Gendered occupation: Situated understandings of gender, womanhood and occupation in Tanzania. *Journal of Occupational Science*.29 (1), 21-35
- McCarthy. K., Ballog. M., Carranza. M. & Lee. K. (2022). Doing nonbinary gender: The occupational experience of nonbinary persons in the environment. *Journal of Occupational Science*.29 (1), 36-51
- Almeida. D. (2022). Night-time leisure: Gender and sexuality intersected by generation, style, and race in the São Paulo pop LGBTQ+ scene. *Journal of Occupational Science*.22(1), 52-67
- Hugstad. M. (2022). "Some of us actually choose to do this": The meanings of sex work from the perspective of female sex workers in Denmark. *Journal of Occupational Science*.29(1),68-81
- Parnell. R. (2020). Occupational imbalance in hurried African American working mothers Regina Parnell. *Journal of Occupational Science*.29 (1), 82-96
- Thomas. T. E., Rudman. D. L., McGrath. C., Cameron. D., Abraham. V. J., Gunaseelan. J. & Vinothkumar. S. P. (2022). Situating occupational injustices experienced by children with disabilities in rural India within sociocultural, economic, and systemic conditions. *Journal of Occupational Science*.29 (1), 97-114
- Barlott. T. & Turpin. T. (2022). Desiring occupation: Theorising the passion, creativity, and social production of everyday life. *Journal of Occupational Science*.29 (1), 130-140

Journal of Occupational Science(2022) 第29巻 2号

2022年発行のJOS29巻2号は、人種差別や強制移住、失業増加、紛争やCovid-19の流行など社会的、環境的、地理的、歴史的、文化的、政治的、対人関係的な状況が人々の日常の行動に与える影響について、さまざまな場所からの事例を提供する一連の論文が掲載されている。JOSではこれまでいくつかの論文が著者の第一言語と英語で掲載されてきた。編集者であるFarias & Magalhães (2022)は、異文化翻訳を取り入れることで、この号に掲載されている論文は、支配的な人種、民族、言語の領域の外で構築された知識の例とも見なすことができると述べている。本書評では以前英語でJOSに掲載された論文を除く新規の3編を紹介する。

Ferreira, Farias & Quarneti (2022)は、作業に基づく研究におけるジェンダー構成概念への取り組みとしてジェンダーという概念が学問分野と実践でどのように使用され、定義、探究されてきたのかを取り上げるためにスコーピングレビューを行った。分析の結果2つの主要なカテゴリが明らかとなった。これに加えてジェンダーの概念の発展がフェミニズムの批判的立場から学問の確立に関連して紹介された。作業の可能性と不平等の両者を導く方略を明らかにするために、この概念に批判的な視点を導入することの重要性が明らかとなった。

Morrison(2021)は、Slagleが作業療法にもたらした貢献と、20世紀初頭において重要なプラグマティズムと、彼女の関係について述べる中で、作業療法におけるプラグマティズムの背景について概説し、それをもとに、Slagleの理論をプラグマティズムから解釈し、作業科学者にとって認識論的に興味深いSlagleが行った理論的貢献について説明した。作業科学で用いられるいくつかの理論的概念はSlagleの基盤と一致しており、これは作業の基礎や理論、概念の歴史的経過の解釈に貢献し、作業理論との関係について議論を伝える可能性があると言っている。

Núñez, Hernández, & Alarcón (2022)は、資本主義／植民地主義／父権制の支配プロセスと、チリのピオ・ピオ地域で行われている2つの集会的作業の関係について考察した。自然を支配するメカニズムに貢献する採掘主義、技術化、科学化のカテゴリーを分析軸とし脱植民地主義の視点をういた机上調査を実施した。集会的作業は多面的であり、分解をもたらす能力もあれば、一方でナイーブな再生をもたらすことがあることが示唆された。

本号に掲載された複数の論文に触れ、社会や時代、経済など様々な事柄が作業に影響を及ぼしていることが明確に認識された。それぞれの作業を考える際には、その地域や社会、時代を考えるだけでなく、翻訳など言語的な問題の影響を考慮することも念頭において新たな知見に触れていくことが重要だろう。

馬場博規(磐田市立総合病院), 小田原悦子(フリーランス)

文献(引用順)

- Ferreira, Farias & Quarneti(2022). Addressing the gender construct in occupation-based research: A scoping review / Abordaje del constructo género en investigación basada en la ocupación: Un estudio de alcance. *Journal of Occupational Science*. 29 (2), 195-224
- Morrison(2022). An early occupational science? A pragmatic interpretation of the ideas of Eleanor Clarke Slagle / ¿Una temprana Ciencia Ocupacional? Una interpretación pragmatista de las ideas de Eleanor Clarke Slagle. *Journal of Occupational Science*. 29 (2), 225-251
- Núñez, Hernández & Alarcón(2022). Collective occupations and nature: Impacts of the coloniality of nature on rural and fishing communities in Chile. *Journal of Occupational Science*. 29 (2), 252-262

Journal of Occupational Science(2022) 第29巻 3号

近年続いたcovid-19のパンデミックは、地域によってその影響や反応は異なるものの、これまでにあまり経験がなかったような地球規模での影響-作業的混乱-を及ぼした。パンデミックによって、作業科学者はそのような地球規模の出来事作業的レンズを通して見るように、駆り立てられた。その影響を反映して、Journal of Occupational Science 29巻3号は、読者に様々な視点を提供する、10の論文と2つの特集で構成されている。

本号の記事は、学生に関する研究から始まっている。Salarらは、学生の時間使用と作業バランスと時間に関わる生活満足度の関係を調査し、作業バランスが低いと生活の満足度が低い傾向があることを明らかにした。Wernerらはパンデミック前・中の学生の作業参加における時間使用、時間性、テンポの認識の比較を行い、学生たちが時間を自己管理しようとしていることを示した。Krishnagiriらは、パンデミック下での作業的混乱・社会的作業の参加・健康とウェルビーイングの関係に着目し、個人の生活の要因や複雑な相互作用が作業的選択や適応に影響することを明らかにした。Wegnerらは、ロックダウン中の学生を含む若者の余暇活動の経験、適応、健康とウェルビーイングへの影響を調査し、余暇活動を適応することで、外出禁止という作業的不公正に対処していることを明らかにした。

慢性状態にある人々へのパンデミックの影響を探る研究が続く。Jokićらはメンタルヘルスに着目し、女性がパンデミックで受けた作業的混乱の経験と、精神的健康への影響を調査し、パンデミック中に日常生活を守ることの重要性を強調した。Kerrieらは、特に疾患の管理と習慣的なヘルスケアに関する経験に着目し、慢性疾患を持つ人々のパンデミック時に日常的な作業に起こる制限や引き起こされる感情に対して、今まで行ってきたことを変化させて構造と目的をつくり上げていることを明らかにした。To-Milesらは、ロックダウンによる人々の作業の変化について詳細に理解するために、炎症性関節炎を持つ成人と持たない成人の作業とウェルビーイングについて前後・群間比較研究を行い、慢性疾患と短期的な社会的混乱が作業とウェルビーイングに及ぼす影響についての洞察を提供する。

さらに、covid-19から最も影響を受けやすい集団の一つである高齢者に関する研究が続く。Richardsonらは、covid-19による制限が老人ホーム入居者の作業従事にどのような影響を及ぼしたか調査を行った。Gunillaらは、covid-19発生から100日後のスウェーデンの70歳以上の高齢者の生活に、「Doing」「Being」「Becoming」「Belonging」の各作業的側面がどのように表れたか探った。

最後の研究では、DonnellyらがYoutubeのパロディ動画の分析を通して、パンデミック中の作業的混乱をユニークな視点で調査し、以前の習慣やルーチン、変化する作業空間、日々の作業の意味の間の複雑なトランザクションを示した。

続いて、Occupational Terminologyとして、Phelpsらが作業剥奪と、それがもたらす生命を脅かす影響について、より広く理解する必要性を提案する。最後に、Learning and Knowing Occupationとして、Aldrichらが南カリフォルニア大学で開講された新しいコースの開発について紹介し、制度的構造、効果の追跡、作業科学教育の重要性をどう反映しているか論じる。

高木 信也(絃仁病院)

文献(引用順)

- Salar, S., Pekçetin, S., Günal, A., & Akel, B. S. (2022). Time-use, occupational balance, and temporal life satisfaction of university students in Turkey during isolation period of COVID-19. *Journal of Occupational Science*, 29(3), 284-294.
- Werner, J. M., & Jozkowski, A. C. (2022). Comparing graduate occupational therapy students' perceived time use, temporality, and tempo of occupational participation before and during the COVID-19 pandemic. *Journal of Occupational Science*, 29(3), 295-305.
- Krishnagiri, S., & Adler, K. (2022). Occupations, social connections, health, and well-being of US university students during COVID-19. *Journal of Occupational Science*, 29(3), 306-322.
- Wegner, L., Stirrup, S., Desai, H., & de Jongh, J. C. (2022). "This pandemic has changed our daily living": Young adults' leisure experiences during the COVID-19 pandemic in South Africa. *Journal of Occupational Science*, 29(3), 323-335.

- Sangster Jokić, C. A., & Jokić-Begić, N. (2022). Occupational disruption during the COVID-19 pandemic: Exploring changes to daily routines and their potential impact on mental health. *Journal of Occupational Science*, 29(3), 336-351.
- Luck, K. E., Doucet, S., & Luke, A. (2021). Occupational disruption during a pandemic: Exploring the experiences of individuals living with chronic disease. *Journal of Occupational Science*, 29(3), 352-367.
- To-Miles, F., Backman, C. L., Forwell, S., Puterman, E., Håkansson, C., & Wagman, P. (2022). Exploring occupations and well-being before and during the COVID-19 pandemic in adults with and without inflammatory arthritis. *Journal of Occupational Science*, 29(3), 368-385.
- Richardson, G., Cleary, R., & Usher, R. (2022). The impact of the COVID-19 restrictions on nursing home residents: An occupational perspective. *Journal of Occupational Science*, 29(3), 386-401.
- Carlsson, G., Granbom, M., Fristedt, S., Jonsson, O., Hägg, L., Ericsson, J., & Kylén, M. (2022). A hundred days in confinement: Doing, being, becoming, and belonging among older people in Sweden during the COVID-19 pandemic. *Journal of Occupational Science*, 29(3), 402-416.
- Donnelly, M. R., Fukumura, Y. E., & Richter, M. (2021). Untapped sources of contextualized knowledge: Exploring occupational disruption during COVID-19 as showcased through YouTube parodies. *Journal of Occupational Science*, 29(3), 417-429.
- Phelps, E. M., & Aldrich, R. M. (2022). Incarceration during a pandemic: A catalyst for extending the conceptual terrain of occupational deprivation. *Journal of Occupational Science*, 29(3), 430-440.
- Aldrich, R. M., Bream, S., & Gray, J. M. (2022). Course creation as a response to intersecting pandemics: Enhancing students' abilities to leverage and mobilize an occupational perspective. *Journal of Occupational Science*, 29(3), 441-450.

Journal of Occupational Science(2022) 第29巻 4号

JOS29巻4号の書評で編集長Clare Hockingは冒頭、作業科学に関係する中心的組織:南カリフォルニア大学博士課程やそのシンポジウム、アメリカ作業科学学会(SSO:USA)、そしてJournal of Occupational Science がそれぞれ30周年を迎えたことに触れている。そして南カリフォルニア大学作業科学学科の長年の功労者であるGelya Frank名誉教授が巻頭論文を飾っている。

Frank(2022)は作業科学に精通する文化人類学者として作業科学の未来への提言を行なっている。作業科学は様々な立場、位置、文脈の中で役立つ知見を生み出し、今般の社会における様々な問題の解決に貢献するような課題に取り組むことの必要性を訴えている。また作業を理解するための枠組みとしてプラグマティズムの重要性にふれ、その他の理論と共に作業科学の発展に寄与することについて述べている。さらにこの論文に対してDos Santos (2022) はブラジルから、Motimle (2022)は南アフリカからそれぞれの視点を寄稿している。そしてFrankが作業科学で取り組むべき社会の課題として挙げたテーマに触れている論文が続く。

最初の二本は一度電子版JOSの特別号に掲載されたことのある論文であるが、まずLavalley & Johnson (2022)の論文はアメリカ合衆国に根強く残る制度的な人種差別(レイシズム)を取り上げ、作業はレイシズムを助長することも、廃止することもできる強力なツールであることを述べている。この論文は世界中の学者から注目を浴び、本巻発行時点においてJOS史上最もダウンロード回数が多かった論文として2022年のImpact Awardを受賞している。また、Lavalleyは第27回日本作業科学学会の基調講演の演者でもある。次は環境問題と作業の関係に焦点をおいたLiebのスコーピングレビューであり、環境の持続可能性に関する作業科学研究について調べている。その結果を「作業的公正の発展理論」に当て込み持続可能な作業への取り組みにおける構造・文脈的影響について述べ、この分野におけるより多くの作業科学研究の必要性を訴えている。

また、Houtらは失業という社会問題を、批判的レンズを通して取り上げている。カナダとアメリカ合衆国の2つの国で展開されたこの研究は、作業マッピングを用いて長期的な雇用不安がもたらす影響を可視化している。

続いてCOVID-19パンデミックが大学生の作業従事に与えた影響(Tapiaら、2022)を探究した論文を挟み、その後の三論文は新たな社会的取り組みと作業の関係を批判的なレンズを用いて探究している。まずはスウェーデンで高齢者の生活の場の選択肢を広げるコハウジングと高齢者の作業従事について (Pfaff & Trentham, 2022)、続く2編は新たな障害者支援政策が障害者自身の作業権や作業の選択に及ぼす影響について検証している(Bulk, 2022; Katzmanら、2022)。作業に着目することにより、作業的公正の複雑さが明らかになる。

批判的レンズを用いた論文が中心となった本号の最後を飾るのはAldrichら(2022)国際色豊かなチームである。学び、知識を生産する場である学会のあり方について批判的視点から考察し、これまで学問領域から排除されてきたような人々の参加を歓迎し、そこから学びを得るためにも従来の学会の形式に捉われない新しい形の学びを創造し続ける必要性を訴えている。

川端佐代子 (University of North Carolina at Chapel Hill)

文献(引用順)

Hocking, C. (2022). Editorial. *Journal of Occupational Science*, 29(4), 451-453.

Frank, G. (2022). Occupational science's stalled revolution and a manifesto for reconstruction. *Journal of Occupational Science*, 29(4), 455-477. <https://doi-org.libproxy.lib.unc.edu/10.1080/14427591.2022.2110658>

Dos Santos, V. (2022). Social transformation and the neoliberal university: Reconstructing an academic commitment. *Journal of Occupational Science*, 29(4), 482-486. <https://doi-org.libproxy.lib.unc.edu/10.1080/14427591.2022.2110660>

Motimele, M. (2022). Engaging with occupational reconstructions: A perspective from the Global South. *Journal of Occupational Science*, 29(4), 478-481. <https://doi-org.libproxy.lib.unc.edu/10.1080/14427591.2022.2110659>

Lavalley, R., & Johnson, K. R. (2022). Occupation, injustice, and anti-black racism in the United

- States of America. *Journal of Occupational Science*, 29(4), 487-499.
<https://doi-org.libproxy.lib.unc.edu/10.1080/14427591.2020.1810111>
- Lieb, L. C. (2022). Occupation and environmental sustainability: A scoping review. *Journal of Occupational Science*, 29(4), 505-528.
<https://doi-org.libproxy.lib.unc.edu/10.1080/14427591.2020.1830840>
- Huot, S., Aldrich, R., Laliberte Rudman, D., & Stone, M. (2022). Picturing precarity through occupational mapping: Making the (im)mobilities of long-term unemployment visible. *Journal of Occupational Science*, 29(4), 529-544.
<https://doi-org.libproxy.lib.unc.edu/10.1080/14427591.2020.1821244>
- Tapia, V., Isralowitz, E. B., Deng, K., Nguyen, N. T., Young, M., Como, D. H., Martinez, M., Valente, T., & Cermak, S. A. (2022). Exploratory analysis of college students' occupational engagement during COVID-19. *Journal of Occupational Science*, 29(4), 545-561.
<https://doi-org.libproxy.lib.unc.edu/10.1080/14427591.2022.2101021>
- Pfaff, R., & Trentham, B. (2022). Rethinking home: Exploring older adults' occupational engagement in senior cohousing. *Journal of Occupational Science*, 29(4), 562-576.
<https://doi-org.libproxy.lib.unc.edu/10.1080/14427591.2020.1821755>
- Bulk, L. Y. (2022). Occupational rights, choice and variety: A critical occupational analysis of British Columbia's framework for accessibility legislation. *Journal of Occupational Science*, 29(4), 577-585. <https://doi-org.libproxy.lib.unc.edu/10.1080/14427591.2020.1805639>
- Katzman, E., Mohler, E., Durocher, E., & Kinsella, E. A. (2022). Occupational justice in direct-funded attendant services: Possibilities and constraints. *Journal of Occupational Science*, 29(4), 586-601. <https://doi-org.libproxy.lib.unc.edu/10.1080/14427591.2021.1942173>
- Aldrich, R. M., Galvaan, R., Gerlach, A. L., Laliberte Rudman, D., Magalhães, L., Pollard, N., & Farias, L. (2022). Promoting critically informed learning and knowing about occupation through conference engagements. *Journal of Occupational Science*, 29(4), 602-617.
<https://doi-org.libproxy.lib.unc.edu/10.1080/14427591.2021.1970617>